

紅板締め

高崎でよみがえった赤の技法



紅板締め(酸性染料)の間着 大正時代頃/個人蔵



紅板締め(ベニバナ染)の襦袢・背部分 江戸時代/個人蔵

「赤」をテーマにした秋の企画展では、「紅」をライフワークに作家活動をされている吉村晴子さんが取り組む「紅板締め」技法を取り上げます。

紅板締めは、模様を彫った板で折りたたんだ絹布をはさんで赤で染める技法です。江戸時代から明治時代前半にかけて紅板締めを用いた襦袢や間着が女性たちに愛されましたが、昭和初期にその技法はほぼ途絶えてしまい「幻の染色」とも言われています。

紅板締め技法の復元に取り組んできた吉村晴子さんが復元成功を発表してから15年、その取り組みは、繋げていく活動へと転換しています。2020年からは当園で植物染料による紅板締め手法の確立を目指して試験染を重ねてきました。技法の復活から伝承への動きを、歴史的資料、研究の記録とともにご覧いただけます。

関連事業

紅の小物作り

日時：10月8日・22日・11月5日・19日・12月3日 各金曜日

①午前10時～10時30分 ②10時30分～11時 ③11時～11時30分

講師：たかさき紅の会

内容：紅絹を使った簡単な小物作り

対象・定員：高校生以上・各回5名

参加費：無料(入館料がかかります)

申込方法：9月28日(火)9:30から電話で受付(先着順・1人1回)

吉村晴子さんギャラリートーク

日時：10月8日・22日・11月5日・19日・12月3日 各金曜日 13時～14時

講師：吉村晴子(染色家)

内容：紅板締めの技法や展示資料についての展示会場でのお話

定員：10名 参加費：無料(入館料がかかります)

申込方法：9月23日(木・祝)9:30から電話で受付(先着順)

アカネによる紅板締め実演講演会と作品解説会

日時：10月17日(日)10時～15時

講師：吉村晴子(染色家)、新井正直(古布収集家)

内容：アカネを使った紅板締めの染色の実演とお話。作業の合間に古い紅板締めの着物などについて展示会場で解説を聞きます。

定員：20名 参加費：無料(入館料がかかります)

申込方法：9月25日(土)9:30から電話で受付(先着順)

対談「紅板締め技法がよみがえるまで」

日時：10月31日(日)13時～15時

講師：吉村晴子(染色家)×黒田亮子(美術史家)

内容：紅板締め技法の復元に取り組んできた吉村氏と、復元構想の出発時から見守り協力してきた黒田氏との対談

定員：30名 参加費：無料(入館料がかかります)

申込方法：10月2日(土)9:30から電話で受付(先着順)

交通案内

- JR高崎駅下車。市内循環バス「ぐるりん」観音山線で約30分
- 高崎駅から5.1km、タクシーで約15分
- 高速道路のご利用は関越自動車道「前橋」、「高崎」、上信越自動車道「藤岡」、「吉井」の各インターチェンジより約30～40分
- 染料植物園駐車場(170台)のほか、染色工芸館前に3台分のおもいやり駐車場がございます。

ぐるりん観音山線 時刻表 (高崎駅西口8番のりば)

● 系統番号13 農二・染料植物園コース

高崎駅西口	9:00	10:20	11:40	13:25	14:50	16:10
染料植物園入口	9:19	10:39	11:59	13:44	15:09	16:29
高崎駅西口	9:59	11:19	12:39	14:24	15:49	17:09

● 系統番号14 片岡・観音山コース

高崎駅西口	9:10	10:30	11:50	13:35	15:00	16:20
染料植物園入口	9:42	11:02	12:22	14:07	15:32	16:52
高崎駅西口	10:09	11:29	12:49	14:34	15:59	17:19

■ 問い合わせ・申し込み先



高崎市染料植物園

〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町 2302-11 TEL:027-328-6808 FAX:027-328-6818
senryou@city.takasaki.gunma.jp www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2017082200011/

